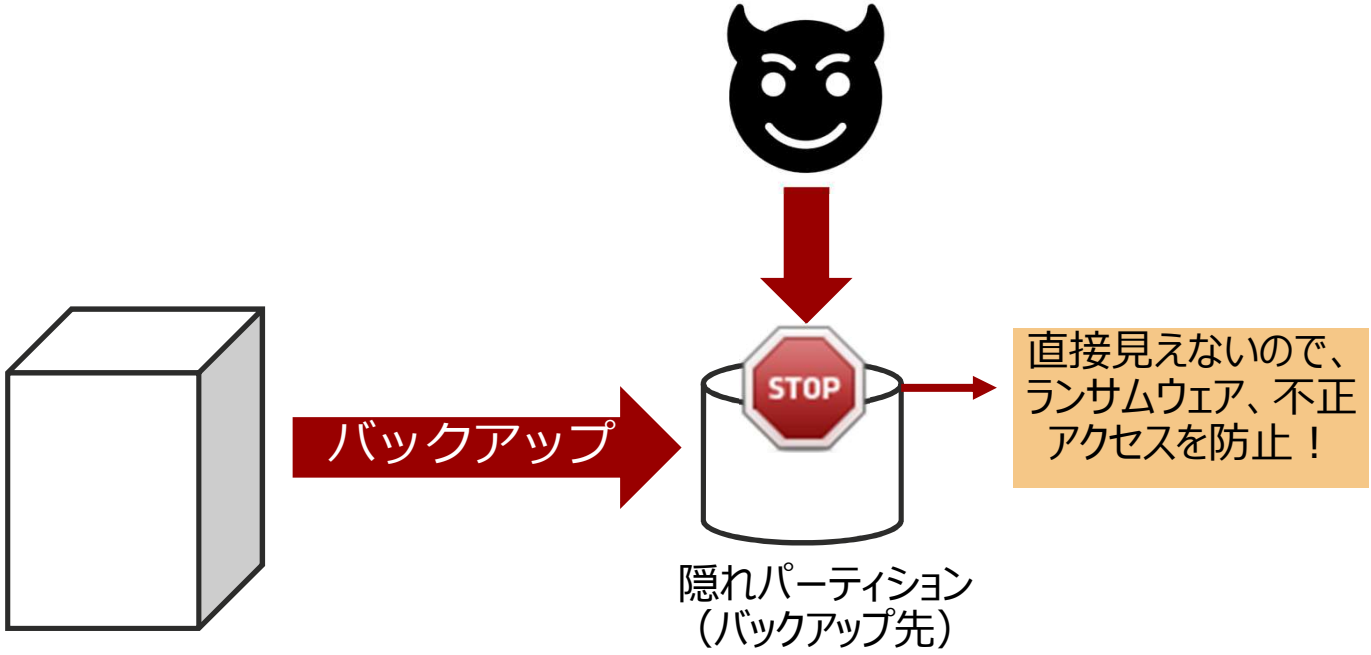
SP3

System Recovery 18 SP3の変更点

- バックアップ先として隠れパーティションへのバックアップをサポート
- ランサムウェアからの保護、バックアップデータへの不正アクセスを防止



- Linux edition: RHEL 7.5、CentOS 7.4/7.5のサポート

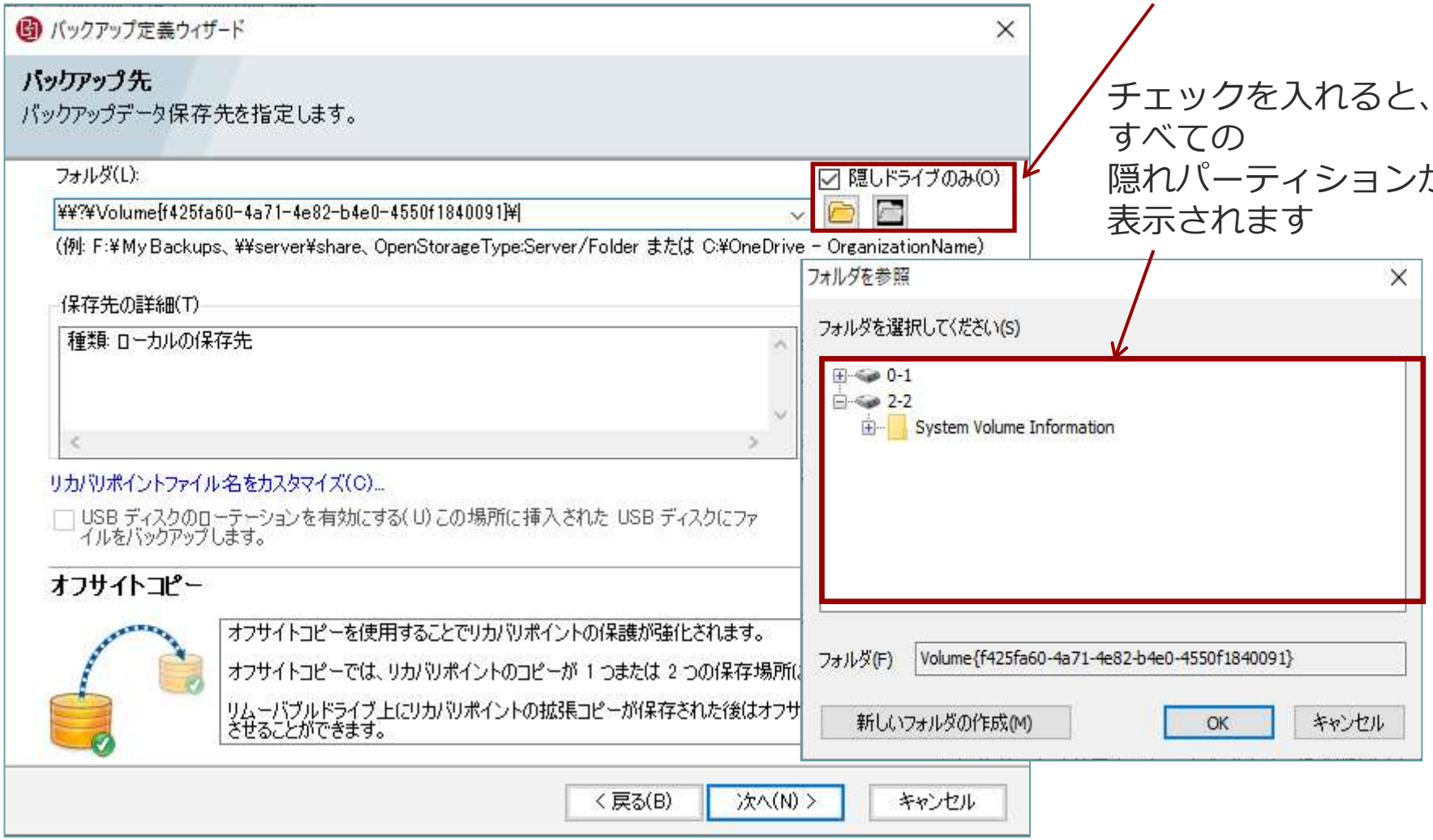
VERITAS

SP3

隠れパーティションの選択

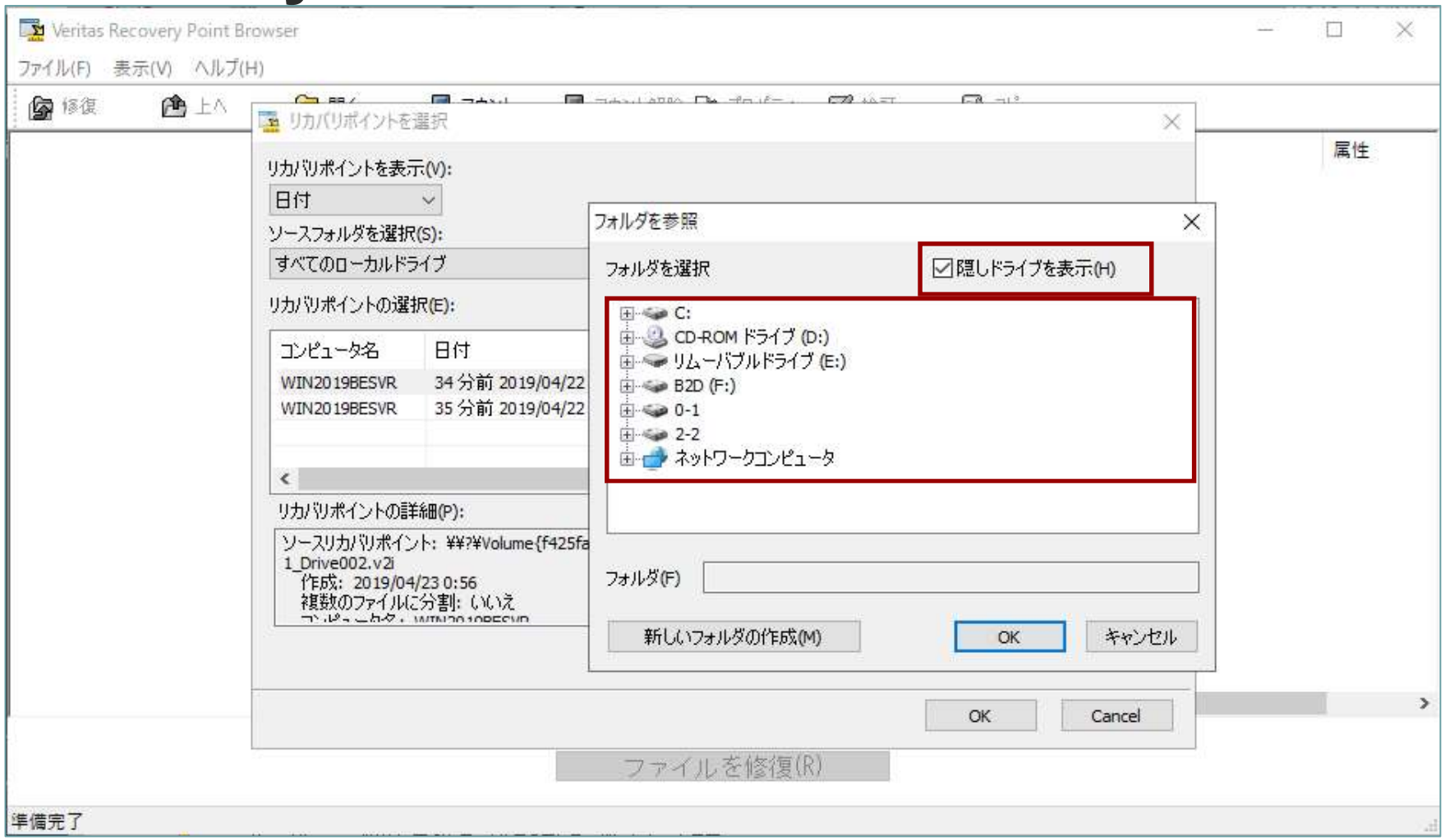
チェック

チェックを入れると、
すべての
隠れパーティションが
表示されます



SP3

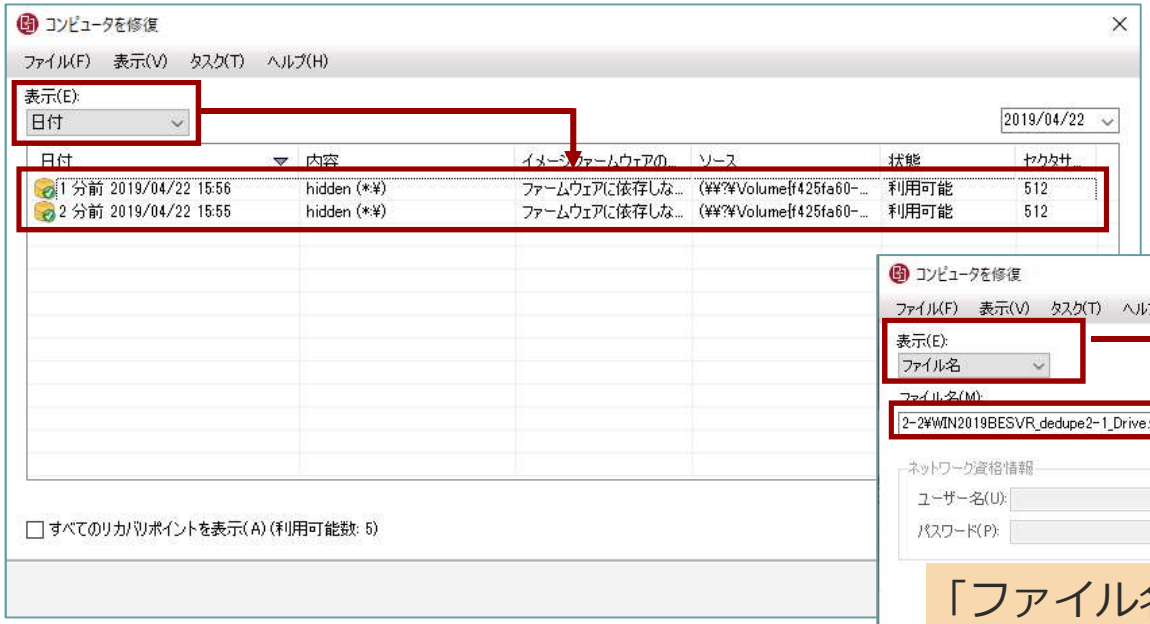
Recovery Point Browser



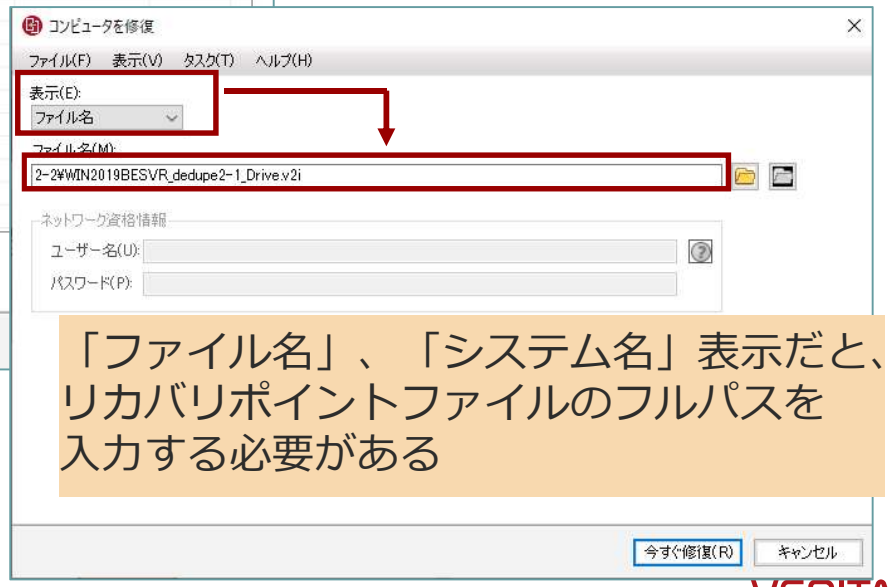
SP3

隠れパーティションに関する制限事項

修復、仮想変換などで隠れパーティションにあるリカバリポイントファイルを指定する場合、「日付」表示では、リカバリポイントファイルを直接選択できるが、「ファイル名」、「システム名」表示では、リカバリポイントファイルのフルパスを入力しなければならない



「日付」表示は、
リカバリポイントファイルが
選択できる



「ファイル名」、「システム名」表示だと、
リカバリポイントファイルのフルパスを
入力する必要がある

SP3

隠れパーティションに関する制限事項

- P2V（仮想変換）の変換先に隠れパーティションを指定することはできない。P2Vのソースのみをサポート
- ファイル/フォルダバックアップの保存先に隠れパーティションを指定することはできない
- 隠れパーティションをダイナミックボリュームのスパン、ストライプ、ミラーボリュームで構成することはできない。シンプルボリュームのみに対応